

福生 高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科： 国語 科目： 言語文化 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 7 組

使用教科書： （ 言語文化【大修館書店】 ）

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり高めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			話・聞	書・読					
	オリエンテーション 言葉の変化や歴史について ・言語と文化の関係性について考え、古典の世界に親しむことの意義を知る。	【指導事項】 ・教科と科目についての説明、教材や学習方法、評価について理解する。 ・言語と文化がどれほど密接な関係を持っているのかを知り、日本の古文に対する興味、関心を高める。 【教材】 プリント	○		【思考力、判断力、表現力等】 ・わが国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を理解している。B（1）オ 【学びに向かう力、人間性等】 ・これからの学習に見通しをもって、わが国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて強く自覚を持とうとしている。			○	1
	世界を見渡す窓 ・言語と文化の関係について、筆者の考えを読み取る。 【知識・技能】 ・日本の言語文化の特質や、日本の文化と外国の文化との関係について理解する。（2）ア 【思考力、判断力、表現力等】 ・読むことにおいて、作品や分掌に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。B（1）イ 【学びに向かう力、人間性等】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に意欲的にかかわる。	【指導事項】 ・言語と文化の関係について、筆者の考えを読み取る。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、言語を豊かにする。 ・明喻や擬人法などの修辞を理解する。 【教材】 教科書、副教材、プロジェクター、プリント等	○	○	【知識・技能】 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。（1）エ 日本の言語文化の特質や、日本の文化と外国の文化との関係について理解している。（2）ア 【思考力、判断力、表現力等】 ・読むことにおいて、作品や分掌に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。B（1）イ 【学びに向かう力、人間性等】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に意欲的にかかわろうとしている。	○	○	○	6
	古典文法入門 ・基本的な古文の知識を理解し、身に付ける。 【知識・技能】 ・日本の言語文化に特徴的な表現や変化を理解し、語感を磨く。（1）ウ ・古文を読むために必要な言語表記の知識や言葉の意味の理解を深める。（2）ウエ 【思考力、判断力、表現力等】 ・母音が重なる歴史的仮名遣いで表記された言葉を、現代仮名遣いで正しい形に表現する。B（1）イウ 【学びに向かう力、人間性等】 ・説明に基づいて参考書に積極的に取り組み、言語文化への理解を深める。	【指導事項】 ・古文（文語文）と現代文（口語文）の違いを理解する。 ・歴史的仮名遣いの表記や発生について学び、その原則やよきまりを身につける。 ・言葉の単位を理解し、日本語文法について正しく把握する。 ・単語の種類について学び、自立語と付属語の違い、体言と用言の内訳などを理解する。 【教材】 副教材、プロジェクター、プリント等	○	○	【知識・技能】 ・日本の言語文化に特徴的な表現や変化を理解し、語感を磨く。（1）ウ ・古文を読むために必要な言語表記の知識や言葉の意味の理解を深める。（2）ウエ 【思考力、判断力、表現力等】 ・母音が重なる歴史的仮名遣いで表記された言葉を、現代仮名遣いで正しい形に表現する。B（1）イウ 【学びに向かう力、人間性等】 ・説明に基づいて参考書に積極的に取り組み、言語文化への理解を深める。	○	○	○	5

福生 高等学校 令和6年度（1 学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教 科： 国語 科 目： 言語文化 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 言語文化【大修館書店】 ）

教科 国語 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり高めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書 読					
1 学 期	定期考査					○	○	○	1
	田舎の児、桜の散るを見て泣くこと ・古典作品に親しむとともに、当時の情趣や風情について考える。 【知識・技能】 ・本文中に登場するわが国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。(1)ウ 【思考力、判断力、表現力等】 ・古典作品に親しむとともに、当時の情趣や風情について考える。B（1）アイ ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に把握し、作品に表れているものの見方や考え方を捉えて内容を解釈する。B（1）アイ 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合う。	【指導事項】 ・古典作品に親しむとともに、当時の情趣や風情について考える。 ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に把握する。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文法のきまりを理解する。 【教材】 教科書、副教材、プロジェクトター、プリント等	○	○	【知識・技能】 ・本文中に登場するわが国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。(1)ウ 【思考力、判断力、表現力等】 ・古典作品に親しむとともに、当時の情趣や風情について考える。B（1）アイ ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に把握し、作品に表れているものの見方や考え方を捉えて内容を解釈する。B（1）アイ 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合う。	○	○	○	5
	児のそら寝 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 【知識及び技能】 ・本文中に登場するわが国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。(1)ウ ・古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化について理解を深める。(2)ウエ 【思考力、判断力、表現力等】 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを理解する。B（1）アイ ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に把握し、作品に表れているものの見方や考え方を捉えて内容を解釈する。B（1）アイ 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合う。	【指導事項】 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に把握する。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文法のきまりを理解する。 【教材】 教科書、副教材、プロジェクトター、プリント等		○	【知識及び技能】 ・本文中に登場するわが国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ ・古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化について理解を深めている。(2)ウエ 【思考力、判断力、表現力等】 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを理解している。B（1）アイ ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に把握し、作品に表れているものの見方や考え方を捉えて内容を解釈している。B（1）アイ 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合おうとしている。	○	○	○	6
	定期考査					○	○	○	1

福生 高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科： 国語 科目： 言語文化 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 7 組
使用教科書： （ 言語文化【大修館書店】 ）

教科	国語	の目標：
【知識及び技能】	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	
【思考力、判断力、表現力等】	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。	
【学びに向かう力、人間性等】	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり高めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書 読					
2 学 期	伊勢物語 ・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 【知識及び技能】 ・本文中に登場するわが国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。（１）ウ ・古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化について理解を深める。（２）ウエ 【思考力、判断力、表現力等】 ・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解するＢ（１）アイ ・歌物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に把握し、作品に表れているものの見方や考え方を捉えて内容を解釈する。Ｂ（１）アイ 【学びに向かう力、人間性等】 ・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉える。	【指導事項】 ・歌の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に把握する。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・「東下り」では課題に応じて調査する。 ・「芥川」では絵画資料と、「東下り」では他の章段と、「筒井筒」では『大和物語』の同話と、それぞれ読み比べ、解釈を深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・「歴史の窓」と「筒井筒」の課題を踏まえて、作品の歴史的、文化的背景を理解する。 ・用言の活用について、文語の決まりを理解する。 【教材】 教科書、副教材、プロジェクト、プリント等			【知識及び技能】 ・本文中に登場するわが国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。（１）ウ ・古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化について理解を深めている。（２）ウエ 【思考力、判断力、表現力等】 ・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解しているＢ（１）アイ ・歌物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に把握し、作品に表れているものの見方や考え方を捉えて内容を解釈している。Ｂ（１）アイ 【学びに向かう力、人間性等】 ・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。				7
	徒然草 ・『枕草子』とは異なる思索的な随筆を読んで、作者の批評的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 【知識及び技能】 ・本文中に登場するわが国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。（１）ウ ・古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化について理解を深める。（２）ウエ 【思考力、判断力、表現力等】 ・自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方、考え方を理解する。Ｂ（１）アイ ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に把握し、作品に表れているものの見方や考え方を捉えて内容を解釈する。Ｂ（１）アイ 【学びに向かう力、人間性等】 ・学習の見通しをもって随筆のさまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、考えたことを効果的に伝えるよう表現の仕方を工夫して書く。	【指導事項】 ・自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方、考え方を理解する。 ・思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 ・自由な文体の随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に把握する。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・「花は盛りに」では課題に応じて調査する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・「歴史の窓」と読み合わせて、作品の歴史的、文化的背景を理解する。 ・用言の活用について、文語の決まりを理解する。 【教材】 教科書、副教材、プロジェクト、プリント等			【知識及び技能】 ・本文中に登場するわが国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。（１）ウ ・古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化について理解を深めている。（２）ウエ 【思考力、判断力、表現力等】 ・自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方、考え方を理解している。Ｂ（１）アイ ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に把握し、作品に表れているものの見方や考え方を捉えて内容を解釈している。Ｂ（１）アイ 【学びに向かう力、人間性等】 ・学習の見通しをもって随筆のさまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、考えたことを効果的に伝えるよう表現の仕方を工夫して書こうとしている。				7
	定期考査								1
	訓読に親む 漢文を訓読するための基礎知識を習得する。 【知識及び技能】 わが国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにする。（１）ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまりや古典特有の表現などについて理解を深める。（２）ウ 【思考力、判断力、表現力等】 漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方、助字の働きと意味、再読文字の種類と読み方を習得する。Ｂ（１）ア 【学びに向かう力、人間性等】 これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身に付ける。	【指導事項】 漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。 漢文を訓読するための基礎知識として、助字のはたらきと意味を習得する。 漢文を訓読するための基礎知識として、再読文字の種類と読み方を習得する。 故事成語や格言に多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 わが国の文化と外国の文化との関係について理解する。 訓読のきまりを理解する。 【教材】 教科書、副教材、プロジェクト、プリント等			【知識及び技能】 わが国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。（１）ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。（２）ウ 【思考力、判断力、表現力等】 漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方、助字の働きと意味、再読文字の種類と読み方を習得している。Ｂ（１）ア 【学びに向かう力、人間性等】 これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身に付けようとしている。				5

福生 高等学校 令和6年度（1 学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教 科： 国語 科 目： 言語文化 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 言語文化【大修館書店】 ）

教科 国語 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり高めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		話・聞	書 読					
先従隗始 戦国時代を背景とした国の状況を知るとともに、郭隗が用いた論理の巧みさを読み解く。 【知識及び技能】 わが国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにする。(1)ウ わが国の言語文化の特質やわが国の文化と外国の文化との関係について理解する。(2)ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまりや古典特有の表現などについて理解を深める。(2)ウ 【思考力、判断力、表現力等】 戦国時代を背景とした国の状況を知るとともに、郭隗が用いた論理の巧みさを読み解く。B (1)アイ 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に史伝の特徴を理解し、たとえ話における論理を説明できる。	【指導事項】 戦国時代を背景とした国の状況を知るとともに、郭隗が用いた論理の巧みさを読み解く。 史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に把握する。 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 「先従隗始」の由来と現代の意味の違いを知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 訓読のきまりを理解する。 【教材】 教科書、副教材、プロジェクト等			【知識及び技能】 わが国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 (1) ウ わが国の言語文化の特質やわが国の文化と外国の文化との関係について理解している。 (2) ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2) ウ 【思考力、判断力、表現力等】 戦国時代を背景とした国の状況を知るとともに、郭隗が用いた論理の巧みさを読み解いている。B (1) アイ 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に史伝の特徴を理解し、たとえ話における論理を説明しようとしている。	○	○	○	6
定期考査					○	○	○	1

[illegible]